



柳沢中学校だより

朱雀の翼



西 東京市立柳沢中学校
校長 浅野 周子
電話番号 042-463-5014
FAX番号 042-462-3104
令和5年9月20日 第5号

クリスマスキャロルが流れる頃にはどのような自分になっているか

チャイムで動く、規則正しい生活が戻ってきて2週間がたちました。2学期も自分を成長させるいい機会となる行事が続きます。クラスや学年の団結力が深まる合唱コンクール、自分以外の人と、同じ目標に向かって、協力したり練習したりしてクラスの団結力を深める機会がたくさんあります。学校だからこそ経験できることです。

柳沢中学校の生徒が、この2学期に様々な経験をして、より一層成長しながら、どのような思い出をつかっていくのかわくわくしています。

3年生は、卒業までの6か月、自分の進む道を決めていきますが、自分が納得する道に進んでいくように願っています。「自分ならできる」と自分を信じるのが、新たな一歩を踏み出す勇気を生むのです。

さて、始業式に皆さんに3つのお願いをしました。実行状況はいかがでしょう。

(1) 2学期の目標を考えると、クリスマスの頃に、どのような自分になっていたいか、よく考えて目標をたててください。そして、目標を達成するためには、具体的な行動案を考えることが大切です。今までの経験を踏まえ、目標を達成するためにどういうことをしたらいいか、計画してください。たとえば、毎日少しずつ10分でもいいから時間を作って漢字や英単語の練習をすること、1学期より、5分早く家を出るなど具体的な行動を考えることができましたか。

(2) 2学期も授業を大切にしてお過ごし、落ち着いた学校生活を過ごしてください。この2学期も、「自学の力」を身に付けることを意識しましょう。自分の世界に入り、じっくりと考える時間をもつことで、深く理解する力が身に付いていきます。

そして、人の話をしっかりと聴く力が大切です。人の意見や考えを尊重し、共感することで、新たな視点、新しいものの見方、広い視野をもつことができます。これらの力は、必ず、学力向上につながります。

(3) 当たり前のことを大切にしてください。思いやりの心を持ち、他者との関わりを大切にすることは、学校生活をより豊かにします。そして、相手に対する思いやりや感謝の気持ちを言葉にして伝えてください。これが、柳沢中学校をより居心地の良い場所にする方法になります。

自分が幸せであることは周りの人たちにもよい影響を与えます。自分のご機嫌は、自分でつくるものだと言ってきましたが、クリスマスの頃、皆さんが自分の目標に向かって努力し、また成長した姿を想像すると、私もとても楽しみです。

新しい学期の始まりは、新たな一歩を踏み出す時期です。目標を持ち、行動することで、さらなる成長が約束されています。どうか、一人一人が自分のご機嫌をつかって、素敵な日々にしていくよう心から願っています。

ウィリアム・ジェームズというアメリカの哲学者・心理学者が「人生で重要なのは、他人の評価ではなく、自分自身の評価だ」と言っています。始業式で紹介したウィリアム・ジェームズが言ったもう1つ有名な言葉を書きますので、読んでください。

「心が変われば運命が変わる」

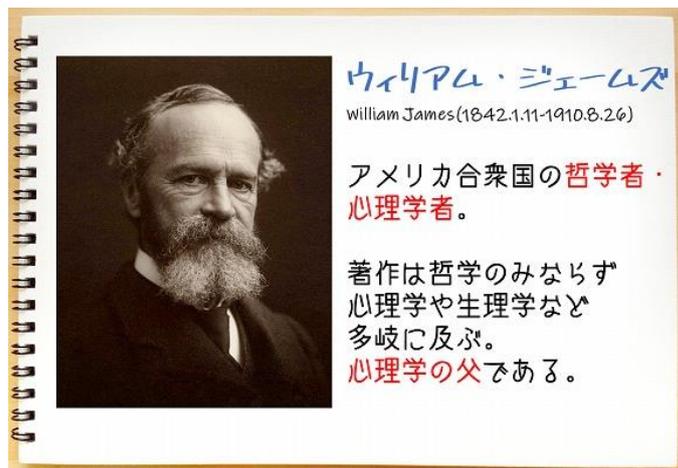
運命は変えられないという人もいますが、自分の気持ちが変われば、運命を変えることができるのです。

『心が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる。

習慣が変われば人格が変わる。

人格が変われば運命が変わる。』



防災教育の日 9月16日

東京都安全教育推進校1年目：さまざまな災害について知り、防災意識を高めよう

プログラム1 防災講話と体操

日本赤十字社の講師による講話では、災害や防災についての基礎的な知識・技能を学びました。



プログラム2 起震車体験

実際に大地震（熊本地震や東日本地震）の揺れ方を消防署の起震車やシミュレーターで体験しました。



プログラム3 避難所訓練

生徒1人1人が、避難者として受付票をボランティア生徒に渡し、渡されたアクションカードに記載してある分担場所に分かれて、避難所運営の方法を体験しました。体験内容は、①仮設トイレの設置方法、②災害時の給水確保の方法、③救命救急方法についてです。

受付では、ボランティア生徒がタブレット端末に、避難者生徒の情報を打ち込む作業をしました。この名簿は、保谷二小（東京都安全教育推進校小中連携：「安全の日」同日開催）で打ち込んでいる名簿と共有できるしくみになっています。



アクションカード



仮設トイレ班



給水班



救命救命班

プログラム4 東京タイムライン作成

各自のタブレットを利用し「必要な情報」「西東京市ハザードマップ」のQRコードを読み取って確認し、作成した東京マイ・タイムラインを4人グループで見合ったりしました。



プログラム5 認知症サポーター講座

高齢化社会の中、避難所に高齢者が多く来られることを想定し、特に認知症の方へのサポートをどのように対応すればよいかを学習しました。



プログラム6 HUG避難所ゲーム

避難所運営ゲームを通して、カードを使って避難所生活を具体的にイメージしてみました。



プログラム7 防災講話と応急手当

日本赤十字社の方から、災害発生時等で負傷した場合の応急手当の方法を学びました。三角巾を使って実習しました。

